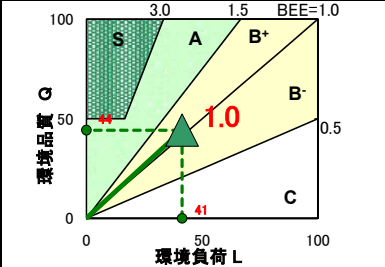
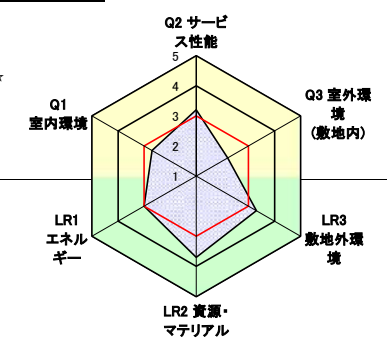


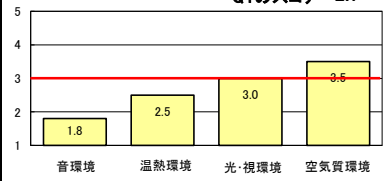
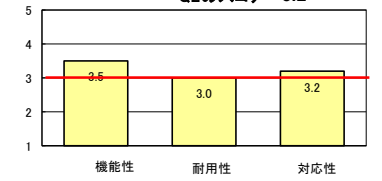
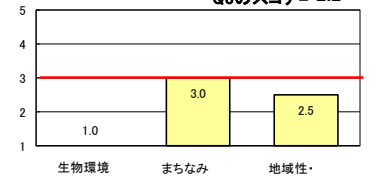
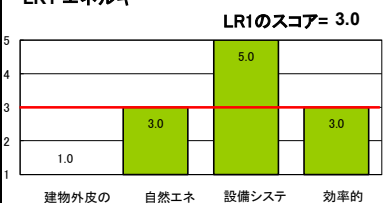
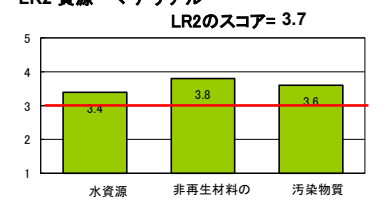
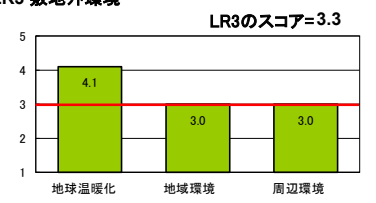
# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	(仮称)大阪屋ショッピング日進店	階数	地上2階		
建設地	愛知県日進市赤池町モチロ61-209 他	構造	S造		
用途地域	第2種住居地域、準住居地域	平均居住人員	300人		
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380時間/年		
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工時期	2026年10月 予定	評価の実施日	2026年1月19日		
敷地面積	7,470 m <sup>2</sup>	作成者	安田 史昭		
建築面積	3,750 m <sup>2</sup>	確認日	2026年1月19日		
延床面積	3,655 m <sup>2</sup>	確認者	安田 史昭		

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.0</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p> 	<p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 72%</p> <p>③上記+②以外の 72%</p> <p>④上記+ 72%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Qのスコア = 2.7		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 2.7</p> 	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.2</p> 	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 2.2</p> 
LR 環境負荷低減性		
LRのスコア = 3.3		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 3.0</p> 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.7</p> 	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.3</p> 

3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>4.1</p> 	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>0.1%</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0%</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.4</p> 	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 (仮称)大阪屋ショッピング日進店

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>												2.7
<b>Q1 室内環境</b>												2.7
<b>1 音環境</b>												1.8
<b>1.1 室内騒音レベル</b>												0.1
1.1 室内騒音レベル												3.0
<b>1.2 遮音</b>												0.4
1 開口部遮音性能												1.0
2 界壁遮音性能												-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												-
<b>1.3 吸音</b>												1.0
<b>2 温熱環境</b>												0.3
<b>2.1 室温制御</b>												0.5
1 室温												2.8
2 外皮性能												3.0
3 ゾーン別制御性												2.0
<b>2.2 湿度制御</b>												3.0
2.2 湿度制御												3.0
<b>2.3 空調方式</b>												3.0
2.3 空調方式												3.0
<b>3 光・視環境</b>												0.2
<b>3.1 昼光利用</b>												3.0
1 昼光率												3.0
2 方位別開口												-
3 昼光利用設備												3.0
<b>3.2 グレア対策</b>												3.0
1 グレア対策												3.0
<b>3.3 照度</b>												3.0
3.3 照度												3.0
<b>3.4 照明制御</b>												3.0
3.4 照明制御												3.0
<b>4 空気質環境</b>												0.2
<b>4.1 発生源対策</b>												3.5
1 発生源対策												0.6
1 化学汚染物質												4.0
F☆☆☆☆を使用												1.00
<b>4.2 換気</b>												0.3
1 換気量												3.0
2 自然換気性能												3.0
3 取り入れ外気への配慮												3.0
<b>4.3 運用管理</b>												0.2
1 運用管理												3.0
1 CO <sub>2</sub> の監視												3.0
2 喫煙の制御												3.0
<b>Q2 サービス性能</b>												-
<b>1 機能性</b>												0.4
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>												3.5
1 機能性・使いやすさ												0.4
1 広さ・収納性												3.0
2 高度情報通信設備対応												3.0
3 バリアフリー計画												3.0
<b>1.2 心理性・快適性</b>												0.3
1 心理性・快適性												3.6
1 広さ感・景観 (天井高)												5.0
2 リフレッシュスペース												2.0
3 内装計画												4.0
売場天井高さ3.80m												0.33
取組3つ												0.33
<b>1.3 維持管理</b>												0.3
1 維持管理												4.0
1 維持管理に配慮した設計												4.0
2 維持管理用機能の確保												4.0
清掃が容易で防汚性の高い内装材・外装材を使用												0.50
洗濯、乾燥させるスペースの確保、清掃用流しを設置												0.50
<b>2 耐用性・信頼性</b>												0.3
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>												3.0
1 耐震・免震・制震・制振												0.4
1 耐震性(建物のこわれにくさ)												3.0
2 免震・制震・制振性能												0.20
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>												0.3
1 耐用年数												3.0
1 躯体材料の耐用年数												0.23
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔												2.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔												3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔												0.09
5 空調・給排水配管の更新必要間隔												3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔												0.08
硬質塩化ビニル管B、水道用ポリエチレン管B												0.15
3.0												0.23
<b>2.4 信頼性</b>												0.1
1 信頼性												3.0
1 空調・換気設備												0.20
2 給排水・衛生設備												3.0
3 電気設備												3.0
4 機械・配管支持方法												3.0
5 通信・情報設備												3.0

<b>3 対応性・更新性</b>				0.2	3.2	0.29	-	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり				0.3	4.4	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			売場天井高さ3.80m		4.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.1未満		3.0	5.0	0.40		3.0	-
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31		3.0	-
3.3 設備の更新性				0.3	2.5	0.38		-	-	-
1 空調配管の更新性			②		3.0	0.17		-	-	-
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17		-	-
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11		-	-
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11		-	-
5 設備機器の更新性					3.0	1.0	0.22		-	-
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22		-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>					-	0.30		-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			独自③			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④			3.0	0.40		-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				0.3	2.5	0.30		-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上						2.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										3.3
<b>LR1 エネルギー</b>						-	0.40		-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=1.1		3.0	1.0	0.30		-	1.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.20		-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.7		3.0	5.0	0.30		-	5.0
<b>4 効率的運用</b>				0.2	3.0	0.20		-	-	3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50		-	
集合住宅の評価					-	-	-		-	-
4.1 モニタリング					-	3.0	-		-	-
4.2 運用管理体制					-	3.0	-		-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>						-	0.30		-	3.7
<b>1 水資源保護</b>				0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水			節水水栓、節水型機器		3.0	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				0.6	3.8	0.63		-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減			②			3.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			独自			3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用						3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			LED照明器具(売場等)、給水栓(トイレ手洗)、自動洗浄装置及びその組み込み小機器(トイレ)		3.0	5.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	3.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自			3.0	5.0	0.24		
LGSにて壁設置のため分別可能									-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				0.2	3.6	0.22		-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	4.0	0.68		-	
1 消火剤			発泡剤使用なし			-	-		-	-
2 発泡剤(断熱材等)						5.0	0.50		-	-
3 冷媒					3.0	3.0	0.50		-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>						-	0.30		-	3.3
1 地球温暖化への配慮			①			4.1	0.33		-	4.1
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない			5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善						2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.2	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			独自			3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制			駐輪場、駐車場の確保。荷捌車両駐車施設の確保。			5.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制						2.0	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音			独自			3.0	1.00		-	
2 振動			独自			-	-		-	-
3 悪臭						-	-		-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制						3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制						3.0	-		-	
3 日照阻害の抑制						3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						3.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30		-	

**重点項目スコアシート**  
**(仮称)大阪屋ショップ日進店**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.1</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.4</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0.1%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化  
 重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和  
 重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用  
 重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)大阪屋ショッピング日進店

計画上の配慮事項	
総合	不特定多数が利用する物販店として利便性、安全性を考慮した計画としました。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆の建材を使用としました。
Q2 サービス性能	売場天井高を3.8mとし開放的な空間としました。
Q3 室外環境(敷地内)	建物位置を道路から後退させ圧迫感の無いよう計画しました。
LR1 エネルギー	省エネ性能の高い機器選定に努めました。
LR2 資源・マテリアル	節水器具の選定に努めました。
LR3 敷地外環境	適切な数の駐車場、駐輪場を確保し利便性に配慮しました。
その他	特になし